

令和5年度第2回岡山県立博物館協議会議事概要(要旨)

日時 令和6年3月22日(金) 13:30~15:10
会場 岡山県立博物館 講堂
出席者 委員：岡本議長、光本副議長、藤原委員、忠政委員、辻田委員、栗原委員、美咲委員、
岡野委員、三田委員、内田委員、岡田委員、鳥居委員
博物館：細川館長、内池副館長、間野総務課長、木下学芸員、岡崎学芸員、松井学芸員、
平田学芸員、宇垣主事、平井副参事、上岡主任
文化財課：浜原課長
欠席者 明楽委員、池田委員、伊勢崎委員

1 開 会

細川館長あいさつ

2 議 題

- (1) 令和5年度事業について
- (2) 令和6年度展覧会計画(案)について
- (3) 長期展覧会計画(案)について
- (4) その他

【委員からの質問(回答)・意見・提案・要望】

議題(1) 令和5年度事業について

- ① 今回の日本酒の特別展を見て日本酒にはまったという方がいた。新型コロナが落ち着き、イベントの情報がすごく増えており、この特別展のように良い企画でも知ってもらえないのは非常にもったいない。これまで以上に情報の拡散に取り組んでもらいたい。(要望)
- ② 特別展を2つ拝見したが、すごく頑張っている印象を受けた。展示室がリニューアルされて、学芸員も楽しんで頑張れていると思う。今後はSNS等での発信をもっと頑張ってもらいたい。(要望)
- ③ 展示を補完するために映像を利用してはどうか。(質問)
⇒ お酒の特別展ではRSKにご協力いただき、酒造りの動画を展示室とロビーで放映した。映像があることでよりリアルさが表現できると思う。実際にいくつかの展覧会を拝見したが、映像を使うことで、展示されているものにさらに広がり表現できるのではと思うことが多かった。(意見)
- ④ 展示室を見てずいぶんきれいになったし、学芸員のレベルが上がっていると感じた委員の方は多かったと思うが、残念なことに博物館の入口のあたりだけは変わってない。博物館は開館しているのかいないのかわからないと言われたこともある。後楽園への入園者が県立博物館に引き込まれるように入口の周辺を工夫してもらいたい。(要望)
- ⑤ 日本酒が好きな友人が特別展に来ていたことを本人のSNSで知った。来館者に発信してもらうことでさらに情報が広がっていくと感じる。また、教育普及のメニューを学校に配布したとのことだが、わかりやすい内容なので、ぜひ学校の先生方に活用してもらいたい。ジュニア学芸員についても、新型コロナで実際に触ったりできない時期を過ごした子どもたちがたくさんいるので、日数を減らして多く受け入れるようにすると言われていたように、そうした子どもたちのことを思いながらやっていただきたい。(要望)
- ⑥ 情報発信について確認だが、写真撮影できるようになったと伺った。博物館が発信を強化するのはもちろんだが、来館者が撮影した写真をどんどん発信できるようにしていくことでよいか。(質問)
⇒ 撮影可としている部分については、個人等でも積極的に発信していただきたいという思いも込めている。発信してほしいという所有者もいるが、撮影可としていただけのよう働きかけてまいりたい。

所有者から許諾をもらうのが難しいことはわかるが、世界の美術館や博物館では撮影可のところが多く、日本でもその方向に進んでいると思うので、今の状況であれば、来館して写真を撮ってどんどん発信してもらうのがよいのではないかと。(質問)

⇒近県の都道府県立の施設では撮影可の施設はほとんどなく、複製品なら撮影可はある。来年度、当館1階はほとんど撮影可とできるだろうが、東京国立博物館でも所有しているものは撮影可、特別展はすべて撮影禁止としているように、2階については所有者の意向を踏まえて対応したい。

東京国立博物館は黙っていても多くの来館者があるが、県立博物館はそうではない。来館者を増やすためにも、撮影可とするなど、来館した人だけができる仕掛けが必要だし、博物館からの発信だけでなく、来館者自身のSNSからの情報発信も有効である。課題はあるだろうが検討いただきたい。(要望)

⑦展示室内の撮影ができなくても、いい展示ならばチラシや外観とかでも発信することはできると思うので、そういった仕掛けも考えてほしい。(要望)

⑧学芸員の調査研究の成果を教えてほしい。(質問)

⇒机上に配布している研究報告に調査研究の一部を掲載している。一つは備前焼の手榴弾について、担当学芸員がそれぞれを記録し、その活用方法についてまとめている。もう一つは宮山遺跡についてであり、休館中の調査研究をまとめた成果である。これらの調査研究は今後の展示に活かしていきたい。

議題(2) 令和6年度展覧会計画(案)について
意見等なし

議題(3) 長期展覧会計画(案)について
意見等なし

議題(4) その他

①総入館者数における外国人の割合はどうか。後楽園は外国人の入園者が増加しているようなので、そういった人も呼び込んでどうか。(質問)

⇒2月時点で約5%である。展示品の名前には英文を付けるようにしている。また、就実大学に協力いただき、岡山の歴史がわかる英文のプリントを作って持ち帰ることができるようにしている。さらに、博物館の入口にある石棺の説明に英文を追加した。今後もそういったものを増やしつつ、QRコードを読み取ると英文の説明が表示されるようにするなど、新たな手法も探していきたい。

②テーマ展で古代吉備文化財センター開所40周年記念の展示を行うとのことだが、古代吉備文化財センターにも展示室はある。県立博物館との関係性はどうなっているのか。

⇒県立博物館は博物館法で定められた登録博物館であり、来館者に実物を見ていただくことがメインで、古代吉備文化財センターは調査機関であり、調査して成果を発表することをメインとしているため、展示室の規模が小さい。今回は開所40周年記念ということであり、こちらで展示を行う。

今回は県立博物館でしっかりやってもらいたい。

⇒今後も連携していきたい。